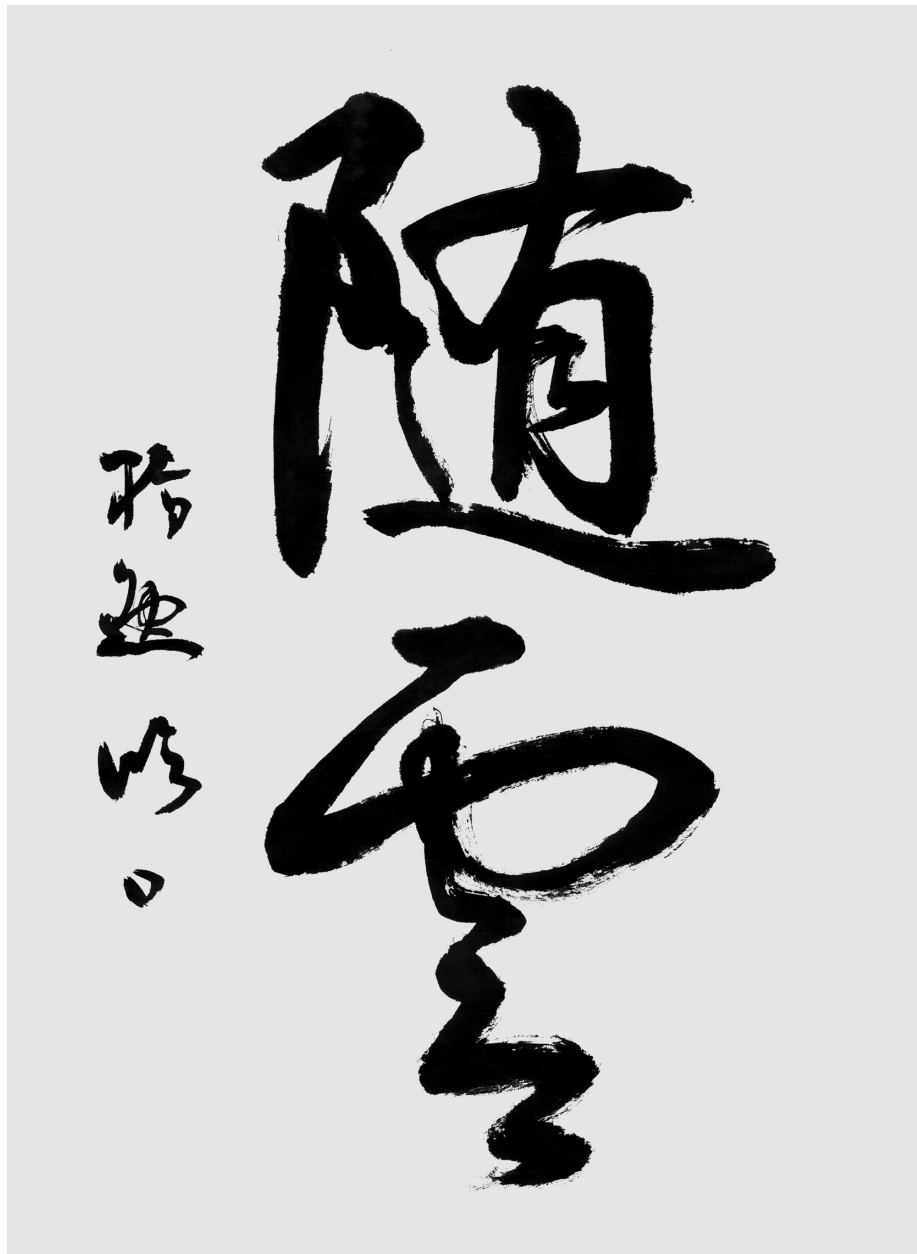


高・大・一般 漢字（行書）

平形 精逸

屏風土代（小野道風）
②

（賣）（売）（葉）随雲



〈解説〉

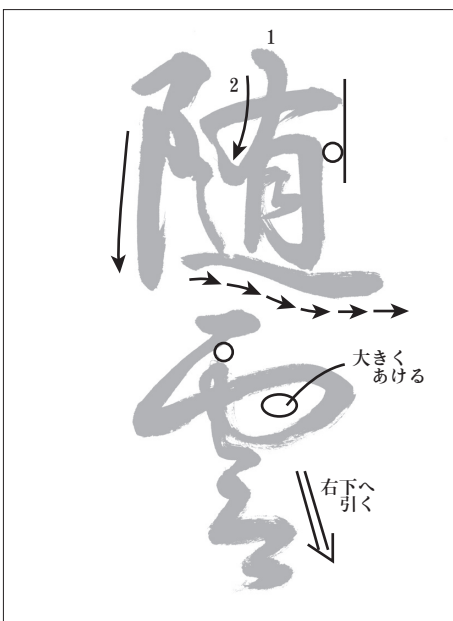
道風の書は王羲之の字形を端正にして、点画をおだやかにしたものです。その優麗な書風は、当時の貴族に愛好されました。楷書も巧みでしたが、行・草書にも優れ素直な書風のため、手本として尊重されたといわれています。今回の課題「随雲」の「雲」はかなり巧妙な書きぶりです。道風は「柳に飛びつく蛙」を見て発憤し、日々すさまじいまでの厳しい姿勢で努力したことも知られます。

ただし、この書風は貴族文化の産物なので、伝統的な書を理解するうえで学習は不可欠ですが、今日の書に生かすのは無理があります。

〈学習上の留意点〉

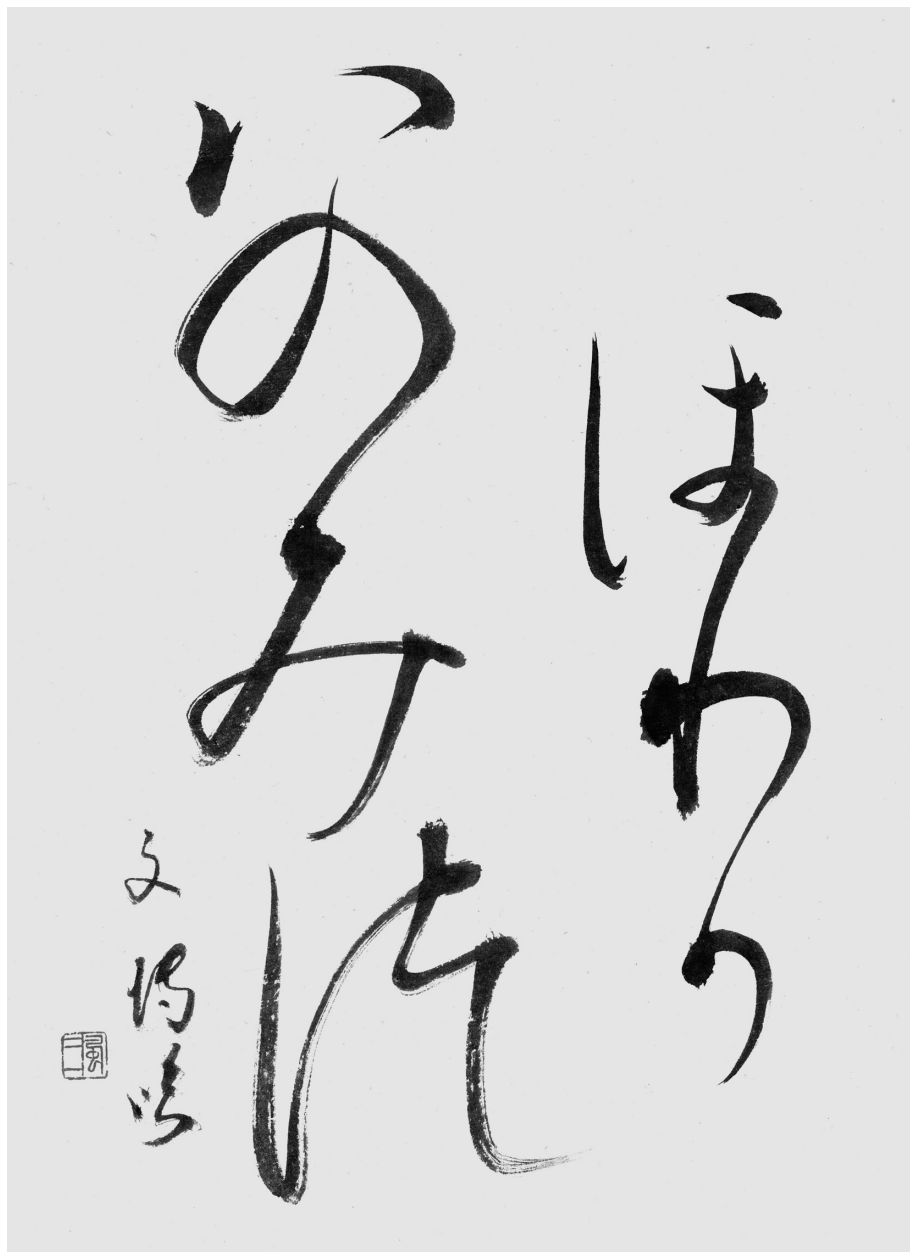
「随」：こさとへんは幅を狭くして、縦画をやや向勢気味に長く引きまします。「有」は左払いを先に書き、かなり立ててから横画に連続させます。「月」は上二画の交点より右にずらし、すべての画を連続させます。

「雲」：一画目は中心より左にずらし、「雨かむり」の二、三画目は思い切って右に大きく旋回させます。四画目の縦画以降は右下に向けて渴筆を加えながら書きます。



高・大・一般 仮名入門

清水 文博



〈釈文〉ほり^利か^可は^ハのみ^ミづ^徒

(近衛本和漢朗詠集)



本課題は「近衛本和漢朗詠集」の「みなかみのさだめてければ 君が代に ふたたび澄める 堀川の水」から採りました。今回はリズムに気をつけて書きましょう。一行目は結びのほか、筆圧を弱くする部分で遅速の変化に留意します。二行目は結びなどに加えて、「ハ」から「の」、さらに「み」から「徒」への、「文字から文字への空筆」があります。空筆部分の動きや呼吸は、全体のリズムにも影響します。「徒」は上の「み」を受けて律動美を表現することを目指しましょう。用紙はにじみの少ない白色半紙を使用してください。大字のためロール紙は不向きです。筆は兼毫筆を推奨します。仮名の小字(細字)用筆は細すぎるため、この文字の大きさに対応できません。ご注意ください。

〈学習上の留意点〉

- 〔ほ〕…リズムと左右の位置関係にも留意する。
- 〔利〕…左下に向かう部分は強く書く。
- 〔可〕…上の文字を受けて遅速緩急を確かめながら書く。
- 〔ハ〕…単純な文字のため細くならないよう確実に運筆する。
- 〔の〕…筆の多くの面を使用し、平板にならないように。
- 〔み〕…結び部分など側筆にしない。
- 〔徒〕…丁寧かつ律動的に運筆する。

遅速の変化

